



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



GWもあつという間に終わり、何だかだるい…やる気が出ない…そうした状態になってしまうこともありますよね。そんな五月病に負けないためにも、本を読んで気持ちをすっきり入れ替えるのはいかがでしょうか？ それでは今回も図書館サポーターがおすすめの本をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～



『岸辺のヤービ』：梨木 果歩 著（913.6 || N55）

小さな三日月湖「マッドガイド・ウォーター」に住む、二本足で歩くハリネズミのようなふしぎな生きもの「ヤービ」。彼らは人間の目に触れないようひっそりと暮らしていましたが、あるとき、人間の「わたし」と出会ってしまいます。しかし、ミルクキャンディーのやりとりをきっかけに二人の物語は始まります。この作品は『西の魔女が死んだ』の作者である梨木香歩さんが描く長編ファンタジーです。ヤービが生きものたちの命について考えたり、伝説・冒険にワクワクしてみたり…そんな穏やかでやさしい日常が描かれています。読み進めていくとクイー族のみならず、その他の生き物たちの日常にも目が離せなくなること間違いなしです！ぜひヤービと一緒にやさしく温かい不思議な世界を覗いてみませんか？

（N・Y）

『貧困子供のSOS』：読売新聞社会部 著（369.4 || Y81）

皆さんは、子どもの貧困の現状をご存知ですか？2017年の子どもの貧困率は、13.9%であり、12年ぶりに改善されたそうです。しかし、7人に1人の子どもは貧困であり、決して低い数字ではありません。この本は、貧困に苦しむ子どもの実情を追い、反響を呼んだ新聞の連載を改めてまとめた本です。貧困家庭に育ち、進学などの夢を諦める少年少女や、塩をかけたティッシュで空腹をしのぐ小学生の姉妹など、貧困で苦しんでいる子どもの現実が書かれています。本書は、現実の話であるため、ハッピーエンドで終わらない話もあります。しかし、困っている子どもたちに手を差し伸べる大人の姿も多くあります。これ以上、貧困に苦しむ子どもを増やさないよう考えるために、ぜひ読んで欲しい本です。

（K・N）

『ランチのアッコちゃん』：柚木 麻子 著（913.6 || Y99）

なんだか最近上手くいかない。そう感じる時はありませんか？この作品の主人公である三智子も、そんな気持ちを抱えつつ仕事に勤しんでいました。そんな彼女を見かねた会社の上司である黒川敦子部長、通称“アッコさん”から、「一週間、ランチを取り替えっこしましょう。」と声をかけられます。最初は気乗りせず、消極的な気持ちで三智子の一週間はスタートするのですが……。アッコさんとの秘密のランチ交換を通して三智子が少しずつ明るく前向きに変わっていく様子は、読んでいるこちら側をも元気づけてくれます。また、この作品は全四編から成る短編集の構成になっていて読みやすい為、普段あまり本に触れる機会がない方にも気軽に手にとって頂けるとおもいます。是非読んでみてください。

（A・T）



* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。